

# 平和へすすむ第一歩

多摩市立瓜生小学校 6年 栗原 凧咲<sup>くりはら なぎさ</sup>

私が広島に行きたいと思ったきっかけは、「はだしのゲン」というマンガです。そのマンガの中では、原爆が落とされたあとの広島で主人公ゲンが必死に生きていくすがたが描かれています。原爆で最も怖いのは、落とされた時の破壊力だけではなく長期にわたる放射能による健康被害です。白血病、脱毛、がんなどになることがあります。

私は、じっさいに広島で胎内被爆をした二川さんにお話をうかがいました。胎内被爆とは、お母さんのおなかの中にまだいる時に放射能を浴びてしまうことで生まれてくる時に小頭症などさまざまな病気を持って生まれてくることです。

二川さんによると、胎内被爆者の方たちがあつまるきのこ会という交流会があるそうです。このきのこ会では、胎内被爆について世界へ情報発信をしたり、胎内被爆者の方々のおたんじょう日を祝ったり、さまざまな活動をしています。私は、この活動を聞いて原爆が落とされたあとの今もくるしんでいる人たちがいることを知りました。そして、そのことを世界へ向けて情報発信をして世界が原爆のおそろしさをわすれないようにしていることにおどろきました。

なぜなら、もし私が二川さんと同じ立場 だったら原爆のことがすごくおそろしくて原爆のことについて世界に発信しようとは、思わないと考えたからです。そんなすごいことができる二川さんをそんけいしています。

その夜私は、ヒロシマ平和の灯のつどいというイベントに参加しました。平和のともしびではともしびからもらった火のついた、ろうそくを持ちながら被爆者の方々にお話を聞き全員で平和について考えました。その後、ろうそくを持ちながら参加者全員で平和の池の周りを歩きました。

原爆について考えるのは、こわいけれど原爆のおそろしさや原爆でくるしんだ人たちのことをわすれずに伝えていくことが平和につながると思いました。私は、今回の派遣事業を通して原爆について考えそれを周りの人に伝えていくことが平和にすすむ第一歩だと考えます。